

近畿中国局フォレスターNEWS

大型排水管を活用した有害鳥獣捕獲個体の埋設処理状況（兵庫森林管理署）

近年、農作物への鳥獣被害防止を目的に、シカの捕獲が強化されていますが、捕獲した個体の埋設処理が捕獲者の大きな負担となっています。

こうした中、兵庫森林管理署では11月18日、兵庫県たつの市の新宮滝谷国有林において、大型排水管を活用した有害鳥獣捕獲個体の埋設処理の状況を紹介する現地検討会を開催しました。

兵庫県内をはじめ、岡山県・広島県の行政機関や有害鳥獣捕獲事業者の総勢62名が参加し、発酵促進剤による減容化と臭気軽減の現状（実証実験中）や水質への影響、地元調整などについて、活発な意見交換が行われました。

当署では、今後も実証試験の情報発信とともに、シカ被害対策をはじめとする地域課題に取組としています。



捕獲個体の投入実演

| 年生コンテナ苗の植栽による造林コストの低減（奈良森林管理事務所）

近畿中国局管内では、再造林コストの削減に向けて、コンテナ苗を導入していますが、裸苗と比べて、価格が高いことや、樹高の初期成長が劣る可能性が高いなどの課題を抱えています。

こうした中、奈良森林管理事務所では、2年生コンテナ苗と比べて、生育期間が短く、育苗コスト及び苗木価格の低減につながる可能性がある1年生コンテナ苗に着目し、令和2年度から桧股国有林内（奈良県吉野郡野迫川村）に試験地を設定しています。その調査結果を共有するため、県・市町村職員、林業関係者等を対象とした現地検討会を11月20日に開催しました。

参加者からは、「今後も継続して調査してほしい」「活着率や成長スピードが変わらない結果に驚いた」との意見が出されるなど、活発な意見交換となりました。



桧股国有林（試験地）での現地確認

林業普及指導員近畿ブロックシンポジウム（三重県）

9月18日・19日、三重県津市のアストホールにて、令和7年度林業普及指導員近畿ブロックシンポジウムが開催され、近畿ブロック7府県の林業普及指導員が「森林資源の適正な管理・利用に向けた市町村支援の取組」をテーマに普及活動の内容を発表しました。

最優秀賞には、尾鷲農林水産事務所の伊藤林業普及指導員が、日本農業遺産に認定された尾鷲ヒノキ林業の保全計画に対する支援や、地名度向上等に向けて実施するクラウドファンディングの内容を報告した「尾鷲林政推進協議会への支援について」が受賞しました。

国有林からの事例報告では、三重森林管理署の中野地域林政調整官から「民有林と国有林が連携した森林整備の取組について」と題して、悟入谷・古野裏山国有林（桑名市・いなべ市）に隣接する三重県・岐阜県の民有林との間で締結している森林整備推進協定（森林共同施業団地）の活動内容を報告しました。

2日目は、意見交換会が開催され、主伐・再造林やスマート林業、森林教育の取組など、各府県の現状や課題、優良事例等について情報交換が行われました。国有林からの検討事項としては、近畿中国森林管理局で実施している「市町村林務担当者実務研修」の現状を報告し、各府県から「豪雨等により、林道災害も増えている。災害対応に不慣れな担当者が多いので、そのような研修があればありがたい。」「各署等での現地検討会や講師の派遣を引き続きお願いしたい。」との貴重な意見をいただきました。

- (検討事項に対する各府県からの意見)
 - 各府県が実施している林務担当職員対象の研修でも、実施方法について多々要望があり、できるだけ参加してもらえるように苦労しながら対応している
 - 市町村職員を大阪に集めて4～5日間拘束するやり方では、非常に参加しにくいと思う。
 - 林務担当者の専任は少なく、農業、建設なども担当している場合が多い。
 - 数日間の研修ではなく、1日研修を3回に分けて実施してほしい。
 - 丸1日の研修でも参加しにくい。
 - 議会や予算の時期は難しい。上半期が望ましい。
 - 座学がオンラインなら参加しやすい
 - オンラインなら参加しやすい。旅費の問題もある。

(要望内容)

- 各署での現地検討会や講師の派遣は引き続きお願いしたい。
- 集中豪雨等により林道災害も増えている。災害対応に不慣れな担当者が多いので、そのような研修があればありがたい。



表彰式（最優秀賞・優秀賞）

林野庁

近畿中国森林管理局
技術普及課

TEL : 06-6881-3524

Email:kc_fukyu@maff.go.jp

URL : <http://www.rynya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75



編集後記

令和7年度の世相を表す「今年の漢字」は『熊』に決まった。全国で熊の被害が相次いだことが主な理由とのことである。クマの大量出没の原因は、主要な食物である山の果実の不作と言わっていたが、近年は、少子高齢化、都市への人口集中などの社会の変化によるクマの分布域の拡大とも言われている。いずれにしても、国有林・民有林の新たな難題が増えたことは間違いない。